令和5年度　学校評価自己評価表

ミッション	ビジョン
○持続可能な三次のひとづくりを担う。 （SDGs人材の育成）	学校教育目標　「知性・人格・勤労を尊び，自律と貢献の志を持つ児童生徒の育成」 ○地域・保護者等と連携協働し，地域をフィールドとした教育活動を展開することにより 他者と協働して，より良い三次を創造する人材を育てる。

三次市立十日市中学校

評価計画											自己評価	改善計画
	b 中期経営目標	担当	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 改善案
高い知性	自己学習能力の向上	教務部・研究部	基礎学力の向上	・計画的な授業研究 ・探究テーマをもった単元・題材開発 ・単元テスト，基礎学力定着テスト ・ドリル学習の継続 ・学び磨く縦割り合同授業 ・家庭学習課題の改善	定期評価での「思考・判断・表現」の観点評価	B以上の生徒を60%以上	69.0%	63.7%	106.2%	A	・全国学力学習状況調査における3年生の解答状況を基に，全教科で分析し，生徒に身に付けさせるべき力の研修を行った。その中で知識・技能の内容を着実に身に付けさせるとともに，問題の解き方等の方略的な指導や資料を活用した活動，表現活動をより充実させることを全教科で確認し，2学期に取り組んだ。3学期以降も，思考・判断・表現の力を向上させる指導を全教科で意識して継続していく。	・基礎基本の力を徹底的に定着させるために繰り返し学習を取り入れることと小テストや単元テストにより，こまめに学習の定着状況を見取っていく。またその上で，思考力や表現力を高める資料活用問題や協働的な活動を計画的に設定していく。 ・自主学習ノートや勉強方法の交流は毎年行っているが，生徒の学びが大きいため，内容を工夫しながら来年度も継続して行く。 ・学習習慣が向上するよう，宿題の内容さらに工夫したり，やりきらせる仕組みを考えるとともに，保護者にも宿題を周知できるような仕組みを考え，家庭からの協力も得たい。また，目標学習時間を教室に掲示し，継続的に指導したり，生徒自身に自己評価させ，意識させたい。
					定期評価での主体的に学習に取り組む態度の観点評価	B以上の生徒を60%以上	80.9%	78.3%	130.5%	A	・各教科において，振り返りの方法や活用の仕方，宿題の内容の工夫を継続している。また，2学期には全学年による「自主学習ノート」や「学習計画表（マイスタディーブック）」の共有，学習相談を行った。他学年の生徒の学習方法を共有することで，新たな学習方法を見出し，自己調整力の向上につながっていると考える。	
					三次市学力到達度検査の平均正答率	実施学年・教科の全てで全国平均以上	未実施	1/10教科中	10%	D	三次市学力到達度調査における平均正答率（（　　）内は全国比）は，1学年で国語56.8%(-5.2%)，社会53.8%(-5.0%)，数学49.5%(-4.2%)，理科50.5%(-10.3)，英語48.6%(-5.6%)であった。2学年では国語69.4%(+1.6%)，社会43.4%(-1.8%)，数学42.6%(-7.5%)，理科56.5%(-0.5%)，英語43.5%(-6.0%)であり，全国平均を上回った教科は10教科中1教科のみとなった。昨年度との比較で全国平均との差が縮まった教科は3教科増えたが，「思考・判断・表現」のみならず，「知識・技能」の力も足りていない。基礎基本の定着を徹底的に図り，基礎をます身に付けていく必要がある。	
					家庭学習の時間	毎日1時間以上する生徒を70%以上	平日 41．7%， 休日 31．5%	平日 46．9% 休日 42．2%	平日 67．0% 休日 60．3%	C	１２月にアンケート調査を行った結果，平日1時間以上家庭学習をしている生徒は1年生３１．２%，２年生４１．０%，3年生６８．７%，休日では，1年生２２．６%，2年生３４．３%，3年生６９．８%であった。２・3年生は学習時間が1学期に比べて伸びてきている。入試を意識し，目的をもって家庭学習に取り組んでいることがわかる。しかし，1年生においては，休憩時間に課題に取り組んでいる生徒も見受けられるが，それでも1学期より学習時間が減少した。家庭学習の時間だけでなく，その質の向上と学習への意欲付けを目指した指導が必要である。	
		教務部	読書意欲の向上	・図書室の機能整備 ・図書室のメディアを活用した授業 ・教室での読書活動	1ヶ月の読書数	月に1冊以上読む生徒を70%以上	54.1%	41.2%	58.9%	D	１２月のアンケート調査では，1か月に1冊以上本を読む生徒は，1年生４０．９%，2年生４１．１%，3年生４１．７%であった。1学期に比べ，どの学年でも数値が減少している。朝読書の開始時間には着席している生徒が多くなっている反面，5分間の読書時間では，十分に読む時間が確保できておらず，1か月に1冊読めるまでにいたっていない。	・学級文庫は図書委員が選ぶため，そのバリエーションをより充実させ，読書が苦手な生徒も手に取りやすい本も取り入れ，本に触れさせる機会を作る。
		保健安全部	生活習慣の確立	・生活ノートによる評価 ・試験期間での集中的な取組 ・各種通信による保護者啓発	生活習慣（起床・家庭学習・就寝）の固定割合	時刻が固定している生徒を80%以上	63%	82.6%	103.2%	A	保健だよりで定期的に睡眠について掲載したり，生活習慣の乱れがある生徒に対して個別に話し，目標就寝時間を具体的に示したりすることで，生徒自身が意識し，生活習慣の改善につながった。しかし，クラブチームの練習や塾等の参加により，家庭学習の時間の確保に苦慮している生徒も見られる。	・通信や学級指導等で生徒に三点固定の確立に向けた啓発を継続するとともに，懇談等の機会をとらえて，保護者にも協力を求めていく。
うるわしい人格	自己指導能力の育成	生徒指導部	生徒指導諸問題の未然防止	・特別活動における自己理解・他者理解の諸活動 ・個に応じた組織的な指導対応 ・カウンセリング継続 ・諸課題への組織的対応 ・保護者・地域への情報発信	生徒の学校生活への意欲の向上	・出席率前年度比120%以上 ・朝遅刻生徒を1日10人未満	・出席率前年度比【102.9%】 ・遅刻者１日平均【4.7人】	・出席率前年度比【97.3%】 ・遅刻者１日平均【4.8人】	81.1%	B	生活アンケート「学校行事（様々な取組）に満足しています。 」における全体肯定的評価は83.1%であった。要因として各行事において生徒が主体となり，新たな取り組み等を実施でき，行事を通して生徒の主体的な学びや参画意識を高め，達成感や自己有用感を得ることができた生徒が多かったことが予想できる。今後も行事等を通して学校生活への意欲を向上を目指す。	・問題行動の未然防止に向けた取組を進めるため，教員による積極的な生徒指導の充実を図る。また学習規律を徹底させることにより，生徒が落ち着いて過ごせる学習環境を構築する。 ・引き続き不登校生徒を減らしていくために個に応じた対応と保護者との連携を細やかに行っていく。また、ＳＳＷを積極的に活用し，生徒本人はもとより，家庭への支援を進めていく。
					生徒指導上の諸課題の発生解決状況	・発生件数前年度比50%以下 ・1週間以内で解決率80%以上	発生件数前年度比【63.0%】 ・1週間以内で解決率【65.5%】	・発生件数前年度比【75.5%】 ・1週間以内で解決率【76.3%】	・発生件数前年度比50%以下【50.9%】 ・1週間以内で解決率80%以上【95.4%】	D B	前年度１月末時点での発生件数は１０６件，今年度は８０件と減少した。教職員への全体共有，組織的対応を中心に行い，大きな事案は減少した。今後、生徒指導部会や職員研修等で理解を深め，各学年ごとに人員の配置，組織的対応への指示等を生徒指導主事を中心に行っていく。解決に至らなかった課題においては，再発防止に努める。	
			自己調整力の向上	・毎月の生活目標による指導 ・学校生活改善についての生徒による総合評価の実施 ・清掃活動の自律化及び活性化	「十日市中学校生徒の基本チェック」の達成率	23/26項目以上の生徒80%以上	54%	50.8%	62.5%	C	・教職員からの声はかけはもちろん，生徒会での取り組み，継続的にチェックも行っているが，生徒一人一人が自発的に行動しようという意識が高まっていないため，生徒の意識改革が重要と考えている。リーダーの育成を目指し，生徒から自発的に声をかける体制の定着を促していく。SHRや道徳の時間などを有効に活用し，各学年の取り組みを実施。（名札をつける習慣化，道徳教育を中心に言葉や生活態度，思いやりの大切さを伝えていく）	今後，教職員の声掛けを継続しながら，生徒会による声掛けや点検活動を充実させて行きたい。そのためには生徒会執行部等のリーダーを中心に生徒自身が課題意識を持ち自分たちで取り組みを考えられるよう，働きかけを行っていきたい。
					清掃活動への参加状況	役割を果たして掃除をする生徒を90%以上	90%	82.9%	92%	B	生徒指導通信において掃除についての文章も出したが，多くの生徒が頑張っている中で，何もせず遊んでいる生徒が一部目立っている。今年度から新たな取り組みをしているが，掃除関してはあまり効果が出ていない。教室で実施している鵜十タイムについては有効な活用となっているため，来年度に向けて，掃除の在り方や実施方法についても検討していく。	普段の生活の中で環境美化に対する意識が高まるよう，まずは机の中やロッカーなど自分の身の回りの整理から意識をさせていく。また，生徒会を中心に意識を高める取り組みを行う。
			体力の向上	・保健体育の授業での体つくり運動の継続 ・生徒が自己目標を設定した主体的な取組	新体力テスト及び事後テスの結果	全項目で県平均以上	―	男子37.5% 女子16.7%	27.1%	D	県平均を下回る項目が多かった。要因としてはコロナ禍による体力の低下。私生活での運動機会の減少。体育科主任を中心に新たな取り組みを実施していかなければならない。授業規律も含め課題があるため，学校全体の課題として捉え取り組んでいく。	現在体育科の授業で行っている活動を継続させながら，今後の結果を分析し新たなる取り組みを行う。体育科教員の連携，研修も増やしていく。
			計画的な放課後活動習慣の確立	・部活動方針に基づく部活動の実施と指導の徹底 ・放課後補充学習の実施	部活動及び放課後活動への満足度	放課後活動が自分磨きに役立つと思う生徒90%以上	86%	83%	91.9%	B	肯定的評価 １年生：83.9%　2年生：80.8%　3年生：83.3%　　全校平均82.7% 部活動の活動時間が減少したことも要因ではあるが,委員会活動など生徒主体で行っていることについては成果も感じている。新生徒会にて新たな取り組み等を今後計画していく。	部活動の社会体育への移行が進められている中，生徒自身が放課後の過ごし方を自ら考え行動できる力をつけていきたい。
たゆまぬ勤労	社会貢献意識の向上	生徒会	生徒会活動の活性化	・各委員会での全校活動の企画及び実施（月に1回以上） ・生徒会の学校づくり活動への参画 ・各学校行事実行委員会への生徒会の参画	生徒会活動の生徒による自己評価	生徒会活動の学校づくりへの貢献，活動内容への生徒満足度80%以上	75%	75%	93.9%	B	・月に１度の委員会を開き，日常の活動に取り組んだ。挨拶運動やノーチャイムウィーク，ボールの貸し出し，学校の現状について意見交流，掃除チェック，本の貸し出しなど各委員会を中心に様々な活動ができた。また，生徒指導規定見直し委員会で決定したことを全体に周知した。 ・学校行事では文化祭や小中合同クリーン作戦，小学校訪問を行った。生徒会執行部を中心に周りの生徒にも声をかけ，新しいことに積極的に取り組むことができた。	委員会の様々な活動が行われているが，活動結果を受けての報告や今後の取り組みや目標についての全体への報告が少ないので，朝会等を利用しながらの啓発活動に力を入れていく。
			ボランティア意識の向上	・校内ボランティア活動の実施（学期3回以上） ・地域と連携した活動の企画と生徒による参画の促進	ボランティア活動に参画する生徒の割合	年間2回以上参加の生徒80%以上	―	26.3%	32.9%	D	1，２学期で2回以上ボランティア活動をした生徒は７８名，１回以上だと１０９名であった。小中合同クリーン作戦では小学校と連携し，清掃活動の範囲を広げ，協力し合って取り組むことができた。 ３学期も卒業式に向けたボランティアがあり，さらに意識を高めていきたい。単発ではなく定期的にボランティアを行っていく。	今後も行事等がある際にはボランティアを募り，積極的なボランティア活動の推進を行っていき，活動後にはしっかり評価を行う。
信頼される学校	学校への信頼度の向上	総務部	保護者の教育活動への参画	・PTA活動における保護者の参画 ・授業参観の充実	保護者による教育活動の評価	学校へ行かせてよかったと考える保護者90%以上	86%	89%	98.8%	B	３学期は授業参観，学年懇談会，３年生立志式など保護者に学校の様子を知ってもらう活動を行った。PTA活動としも，昼の見守り活動について呼びかけをするなど保護者の方と協力を得ながら取り組みを行うことができた。	昼の見守り活動など，PTAと協力して行った活動が，生徒の落ち着きにも繋がっている。来年度も継続して行い，更に多くの保護者に学校へ関わってもらいながらより良い学校づくりに取り組んでいきたい。
			学校からの情報発信	各メディアを通した学校からの情報発信	保護者の満足度	学校からの情報発信に満足する保護者を90%以上	76%	77%	85.5%	B	学校通信や学年通信，進路通信など積極的に情報発信を行っている。配布したプリントの内容を連絡ツールを利用し配信するなど，確実に保護者に伝えるための工夫も行った。	来年度も定期的に各種通信の発行を行い，同時に通信等の連絡物が保護者に確実に届くよう，連絡ツールでの配信も同時に行っていく。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。